

## 道路部会 重要道路を点検

道路部会では、地区内のいくつかの道路を防災重要道路と位置付け、優先的な整備を行うように計画しています。道路には電柱や標識があり、すみきりもされていない所があるなど、普段でも消防車や救急車が通りにくい道路があります。すべての道路をいっせいに整備することは難しいので、重要な道路から整備を進めようというのが、防災重要道路です。

7月17日、道路部会では、防災重要道路の中でも特に重要度が高い、池二小・池袋中の東側の道と、その

東側の道を点検しました。

点検の結果、池二小東側の道では道路の両側に電柱があるため、十分な幅員がないことが判りました。またすみきり部分に電柱があるため、交通の支障になっている場所も確認



防災重要道路(点線)と今回点検した道路(実線)

されました。

道路部会では、点検の結果から、電柱の撤去や移設についての要望書を取りまとめ、東京電力とNTT、豊島区に提出することにしました。

## 跡地利用に知恵をしぼって

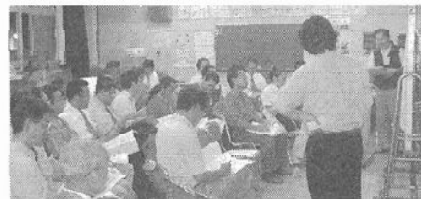
### J R職員住宅跡地検討会 発足

#### 55名の船出

J R職員住宅跡地検討会が4月26日に発足しました。検討会の委員は、町会代表21名、防災まちづくりの会代表9名、一般公募17名、小中学校関係8名の総勢55名の委員で構成されています。

#### まずは目標づくり

会では、4月26日の発足会を経て、早速、跡地利用の目標づくりにとりかかりました。跡地の利用方法については委員に中にもいろいろな意見があり、絞り込むのは大変そうです。会では特定の意見に偏ることなく参加者が納得できるようにとりまとめるため、工夫しながら話し合いを進めています。



### J R職員住宅跡地利用検討会 名簿

青木 正典	青山 静可	青山 日出男
上妻 英成	荒井 良一	嵐 信二
安藤 忠	石川 實	石川 吉治
石川 亮	石丸 徹弘	泉谷 剛
市川 勇二	井上 勝司	岩井 一夫
日井 昌充	畷岡 良宏	江頭 敏明
大畑 嘉子	奥田 渉	小田切岩男
越知 泰彰	小幡 秀生	金田芳一郎
神林 幹雄	喜元香志子	小金井官義
小林 務	小林美よし	柳原 清
佐藤 昭弥	鳴原 紀寿	菅沢 雅明
杉田 憲一	砂川 治	関欠 晃義
曾根真佐子	高井 徳朗	武山 俊雄
玉井 勝	千楽 宏	寺門 高史
長浜 園子	名取 芳治	長谷川和見
原田真太郎	東原 正人	土方三重子
深沢 隆雄	松本 敦	村上 周三
望月 義一	森 淑夫	安井 龍馬
山内 信男		(五十音順・敬称略)

# 樹は遺った

山本周五郎の「樞の木は残った」ではありませんが、まさに「樹は遺った!」のです。

まちの移ろい、人々のなりわいを見続けてきたあの木々たち、あの天まで届きそうな大きな木、中位の木、寄り添うようにそのそばに生きてきた実生の木、灌木、四季を通じて表情を変えるあの樹木たち。いくら「更地受け渡し」が常套だとしても、切ってしまうのは何としても痛ましい。「是非、遺したい!」そんな思いから豊島区へ要望書(下記)を提出することになりました。

「防災まちづくり祭」が終って反省会の会場に向かう途中、「この木、遺したいね」そんな一言から名取会長と委員、行政と住民の協力と知恵で実現しました。

この間約10日。その時はすでに管理会社では伐採も含めて工程表が出来上がっていました。「手を打つが遅かった。間に合わないかもしれない」という一抹以上の不安がありました。要望書を提出してから区に何度も何度も働きかけました。

予定どおり伐採されてしまって、若木が植えられた防災公園が完成した時に、「あそこにあった大きな木はどうしたの」と子供たちに尋ねられた時のことを想像したからです。一方で「自然環境を守ろう」「生命を大切にしよう」と題目を唱えてみても、身近にあるものを切り捨てていく大人たちの言葉を信用するだろうか?と思ったからです。木が残ることになって時間が経てば経つほどに「遺すことが出来良かった」と思う気持ちが大きくなってきています。この樹木たちは本町公園の樹木たちとともに池袋本町の「未来への遺産」になることでしょう。(青山)



### J R職員住宅跡地の樹木保存についての要望書

豊島区長 高野 之天 様

豊島区におかれましては、日頃から私共、池袋本町防災まちづくりの会の活動に絶大なご支援・ご協力をいただきありがとうございます。また、このたびは地区の防災性を高める目的でJ R職員住宅跡地の買取をしていただき誠に感謝の念にたえません。住宅が密集して豊島区内でもっとも危険度が高い当地区としては、この敷地を活用して避難場所、防災活動の拠点にしていきたいと考えております。さて、その跡地利用については、地元で組織されました「J R職員住宅跡地検討会」や「防災まちづくりの会」で検討を進めてまいります。これから検討に入ろうとしているところで結論が出るまでには今しばらく時間がかかります。ところが、今、建物の解体工事に際して、敷地内の貴重な樹木が切りられようとしています。

敷地内には多数の樹木があります。高さ10m以上のりっぱな木もあれば、灌木もあります。跡地利用計画ではできるだけ既存の樹木を残して、その資産と記憶を受け継ぐものとすることが、環境問題へ今までの以上に配慮することが求められるこれらの公園づくりにとって必要なこととなります。ところが今はこの樹木を残すべきかを判断する時間がありません。

ご存じのように樹木は、切るのは一瞬ですが、成長するまでに長年の時間がかかるものです。まして緑の少ない豊島区では「みどり」の広場の基本計画を改訂し、自然と人間の共生などを基本理念としてガーデニング豊島という将来像を模索しようとしています。樹木を無計画に伐採するというのは、その理念にも反することだと思われまます。また、J R職員住宅跡地は池二小に隣接しており、利用計画の中では学校としての体的利用という考え方も出されています。子供達に、次の世代の人たちに、まちの変遷を見守り続けてきた樹齢の高い木々を残すことは、それを通して生命の尊さを伝える1つの方法であると私たちは考えます。

今ある樹木をすべて残してください。どの樹木をどういうふうに残すかについては、検討会の場で改めて検討させていただきます。私共の切なる思いをおくみとりのうえ、すべての樹木が残されるように、ご

助力いただくようお願い申し上げます。

平成十二年五月二十九日

池袋本町防災まちづくりの会  
会長 名取 芳治